学級経営 ここが知りたい

教師と子どもの関係づくり

～ラポート&リレーションの「糸」を紡ぐ～

『子どもに学んだ　「王道」ステップ　ワン・ツー・スリー』の出版記念講演会の感想として、参加者から多くの声が寄せられました。本稿では、それらの声の一部を紹介すると共に、「学級経営　ここが知りたい」に関するトピックを絞り、私の考えを整理してみます。

名城大学大学院 大学・学校づくり研究科および教職センター准教授

曽山 和彦

そやま かずひこ＊群馬県桐生市出身。東京学芸大学卒業、秋田大学大学院修士課程修了、中部学院大学大学院博士課程修了。博士（社会福祉学）
東京都、秋田県の養護学校教諭、秋田県教育委員会指導主事、管理主事を経て現職。学校心理士。ガイダンスカウンセラー。上級教育カウンセラー。学校におけるカウンセリングを考える会代表。
著書に『時々、"オニの心"が出る子どもにアプローチ　学校がするソーシャルスキル・トレーニング』、『時々、"オニの心"が出る子どもにアプローチ2　気になる子に伝わる言葉の"番付表"』（明治図書）、編著書に『気になる子への支援のワザ』（教育開発研究所）、『特別支援教育に生かせるカウンセリング』（ぎょうせい）ほか多数。

1 出版記念講演会 参加者の声から

平成26年3月9日、名古屋市にて開催された「出版記念講演会」は、私にとって人生のメモリアルデーとなりました。定員100名を超える申し込みをいただき、私は改めて多くの方に支えられていることを強く感じました。

私の講演スタイルは、教育カウンセリングの師である國分康孝先生（東京成徳大学名誉教授）のご講演に学ばせていただいたものです。先生のご講演には、「おもしろくて、ためになる―理論的背景のあるおもしろさがあり、なおかつ、実践に役立つ」という2本の柱が必ず立ちます。私も少しずつ先生のご講演に近づくことができるよう、「2本柱」を常に意識して演壇に立つようにしています。当日、2時間の講演は参加者にどのように映ったのでしょうか。参加者の声の一部を紹介します。

●ステップ2「学級集団の理解―ルールとふれあい」は、私も実感として大切にしてきたところでしたので、「本当にそのとおり！」とうなずきながら聴かせていただきました。気になる子に注目するだけでなく、学級全体を向上させ、環境を整えることが支援につながるということをぜひ多くの先生方に知っていただきたいと思いました。

●内容の濃い、しかも明るく楽しいご講演でした。今、ご講演を振り返ってみると、「とてもいい学びができた」という充実感でいっぱいです。

●先生のご講演は、いつ聴いても「元気が出る」「自分の未熟さを感じる」「視野を広げるぞと決意する」という気持ちにさせてもらえるものです。先生のお話は自分が今までの経験で「なんとなく」つかんでいたものを、理論化していただけることが多く、自然とうなずきながら聴かせていただくことができ、時間が過ぎるのが本当に速く感じました。

●学級づくりのスタートとして、先生のお話からたくさんのヒントをいただきました。先生のひと言ひと言にうなずきながら、参加させていただきました。ぜひ実践していきたいと思っています。

●素敵な講演会でした。大切なことをたくさんたくさん確認できました。先生のお話からエネルギーをたくさんいただきました。また、明日からがんばります。

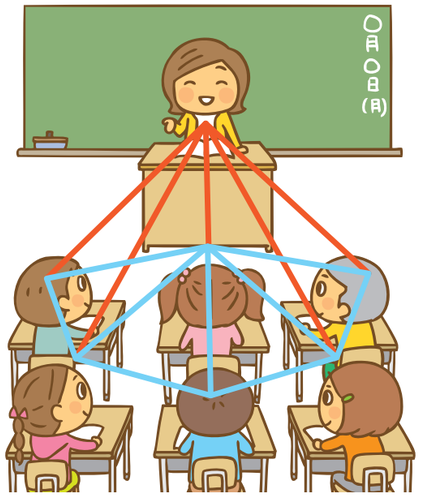
以上の中から、学級づくりのキーワード、「ふれあい」を取り上げ、私の考えを整理してみます。

2 「ふれあい」とは

「ラポート（仏語でラポール）」という用語を耳にしたことのある先生方は多いのではないでしょうか。ラポートは、かかわり合う者同士、ポジティブな感情交流をもっている場合に用いる概念です。一方、「ふれあい」（※1）は、「リレーション、ホンネの交流」のことであり、ポジティブ、ネガティブ双方の感情交流をもっている場合に用いる概念です。イメージしやすいよう、少しくだけた表現を用いるならば、ラポートは「つきあい始めた男女、知り合ったばかりの友人の関係」、ふれあい（以下、リレーション）は「夫婦、親友の関係」と捉えることができます。教師と子ども、子ども同士の関係づくりは、ラポートからリレーションへと進みます。学級内に、徐々に太くなる「かかわりの糸」が何本も何本も紡がれたならば、子どもたちは「ボクは先生とつながっている」「ワタシは○○ちゃんとつながっている」という安心感に包まれることでしょう。

新年度がスタートして3カ月、皆さんの学級ではラポートの糸が紡がれていますか？　あるいは、さらに太くなったリレーションの糸が紡がれていますか？　本稿では、ラポート&リレーションづくりに使える「ワザ」をいくつか皆さんにお伝えします。まずは、教師と子どもの関係づくりから…。（子ども同士の関係づくりは、次号にて）

教師と子ども、子ども同士をつなぐ「かかわりの糸」



3 教師と子どもの関係づくりのワザ

(1) 笑顔で、「○○君、○○さん」と名前を呼ぶ

子どもとの間に「かかわりの糸」を紡ぐために、まずは笑顔で子どもの前に立ちたいものです。「笑顔はその瞬間からつくることができる」。教育のプロである私たち教師は、日々の学校生活の中で「役者」にならねばならない

※1　國分康孝・國分久子『カウンセリングQ&A1』誠信書房1984年 132p

場面が多々あります。たとえ、その日の気分が沈んでいても、「子どもの前には笑顔で立つ」。私がかつて先輩から教えられたことであり、「幸せだから笑うのではない。笑うから幸せなのだ」（アラン『幸福論』）につながることでもあり、今、大学生の前に立つ時にも心の中で反芻（はんすう）している言葉です。

笑顔で「〇〇さん」と名前を呼び、その後で「挨拶をする、褒める、認める」等の具体的な言葉をかけていきましょう。

水谷修氏が、あるご講演の中で「子どもは大人から愛されれば愛されるほど非行から遠ざかる」と話されたことがあります。私は、「愛する」という言葉の具体的な中身は「言葉をかける」ことであると捉えています。

私たち教師は、子どもたちに伝わるようにさまざまな言葉をあふれるほどにかけ続け、「非行」から遠ざけていきたいものです。

(2) その子の好きなこと、得意なこと等を探し、貯めておき、言葉をかける

ブリーフセラピー関連書籍の中でよく目にする用語の一つに「リソース」があります。リソースとは「資源、財産」のことであり、子どもたちは、自分の内にも外にも多くのリソースをもっています。黒沢幸子氏は、先生方に対し、「頭の中で、『リソース、リソース、リソース』と、何を見ても聞いてもやっても、常に念仏のように唱えられているといいでしょう」（※2）とメッセージを送っています。

私が研修等の機会に先生方に伝えている言葉の一つに、「関係づくりの第一歩は相手への関心から」というのがあります。黒沢氏の言葉をお借りするならば、「関係づくりの第一歩は相手のリソース探しから」となるでしょうか。

ぜひ、かかわる子どものリソースに関心を寄せ、「好きなこと、得意なこと」等を心に貯め、言葉をかける教師でありたいものです。

以上のワザを使い、私自身、「かかわりの糸が太くなった！リレーションの関係が生まれた！」と振り返っている思い出の生徒のエピソードを記します。A君、懐かしいなぁ。君のことは大好きでしたよ。

＊＊＊

●転入生のA君

私の学級に転入してきた中学2年生のA君は、ハングルを独学で学び、「読む・書く・話す・聞く」のいずれもバッチリ！というすばらしい能力の持ち主。ただ、A君が他の生徒と違ったのは、私や周りの生徒に対して、ほとんど日本語を使わなかったということ。きっと転入前のさまざまな体験が人とのかかわりを「ブロック」しているのだろうと、当時の私は考えました。私とのかかわりでは、「ネェ（はい）」、「アニョ（いいえ）」、「ケンチャナヨ（大丈夫）」等の言葉を使うだけでしたので、ハングルを知らない私は呆然（ぼう）とするばかり…。

●ハングルをきっかけに

それでも、なんとか「かかわりの糸」を紡ぎたいと思った私がとった作戦は、私がハングルを学び、ハングルを介してA君にかかわろうということでした。

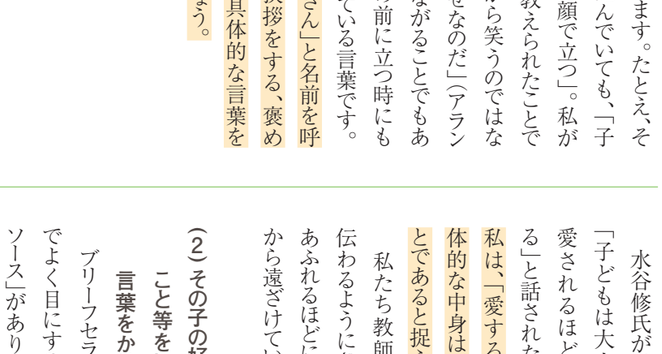
A君と出会って数日後から、ラジオのハングル講座を聴き始め、「アンニョンハセヨ（おはよう）」「チョンマル　マシッソヨ（とってもおいしい）」等の覚え立てのハングルを使って、A君に言葉をかけるようにしました。すると、A君は、「キュウリはオイ」「牛乳はウユ」等、多くの単語をハングルにして教えてくれるようになりました。

A君に言葉をかける際、笑顔はもちろん、彼のリソースであるハングルに関心を寄せたからこそ、関係づくりの第一歩を踏み出すことができ、「かかわりの糸」を紡ぐことができたのだと今、改めて振り返っています。2年間、担任としてかかわったA君は、卒業式の日に「ネクタイを貸してほしい。それを締めて式に出たい」と言ってくれた生徒です（その頃はだいぶ日本語も使うようになっていました）。

＊＊＊

今、振り返っても、「太い糸を紡ぐことができたなぁ」と、懐かしさがこみ上げてくる思い出のA君。君からは大切なことを学ばせてもらいました。本当にありがとう。

余談ですが、息子のお嫁さんが韓国人。今、私はA君とのかかわりで身につけた!?ハングルを駆使して「娘」と楽しくやりとりしています。改めて、A君に感謝です。



※2　黒沢幸子『指導援助に役立つスクールカウンセリング・ワークブック』金子書房2002年 24p

曽山先生著書のご紹介

「軌跡」が「奇跡」を生む!明日からでも「教室でできる」!

教室でできる特別支援教育

子どもに学んだ

「王道」ステップ ワン・ツー・スリー

Contents

第1章	「教室でできる特別支援教育」の基本的な考え方
第2章	教室でできる特別支援教育「王道」ステップ1・2・3
第3章	教室でできる特別支援教育 “実践”へのアプローチ
第4章	紙上再現 自尊感情とソーシャルスキルを育む授業

判型　B5変型判
ページ　120ページ 2色刷
定価　本体1,600円+税
発行　文溪堂